



ミシュカの森とグリーフサポート

震災の日がまた近づいてきました。被災地、特に福島への悲しみは「曖昧な喪失」として「答えのない問い」を突きつけられたままの状態です。あの日、大きな喪失体験を前に、多くの人が悲しまりました。直接関係ない人も、自分事としての関心を寄せたのではないのでしょうか？震災後、著した拙著、岩波ジュニア新書「悲しみを生きる力に」の中で、多くの人が当事者として引き受けようとしたそのことが「悲しみを生きる力に変えていく変化の萌芽になる、と書きました。出版以来、同じタイトルで、全国を講演しています。講演の最後には世田谷事件で逝った亡き家族が可愛がっていたぬいぐるみを主人公にした絵本「ずっとつながってるよ〜こぐまのミシュカのおはなし」（くもん出版）を朗読して終わります。こどもから大人まで、大切な人を失うこと、生きる意味について、一緒に考えるきっかけ作りができれば、と想って続けている営みです。こうした活動の核になっているのが、「ミシュカの森」という年末に開催するイベント。去年は作家の星野智幸さんをお迎えし、「言葉の力〜沈黙を強いるメカニズムに抗して〜」というタイトルで開催しました。

「悲しみを生きる力に」を伝えるために、上智大学のグリーフケア研究所の非常勤講師として、また世田谷区グリーフサポート検討委員として、「グリーフケア」を学び、「グリーフサポート」の輪を広げていく啓発の活動も続けています。対人援助をテーマとする講座では、「どんな人もその人独自の物語を生きており、その物語こそ、その人の尊厳の源。だからこそその人自身の物語を聴き取り、共感できる感性を身につけることが「対人援助」の基本と伝えています。

見えない涙を見、発されない言葉を聴く・・・沈黙もまた雄弁な言葉と知ることなども、その人自身の物語を聴き取るために大切なことなのでしょう。なにより、その人独自の物語を語り始めるために、弱い立場の人がどれほどの逡巡を抱えるか、を自分の体験から伝えるのが私の役目だと思っています。

「ミシュカの森」という活動は、事件のことを決して他人に知られてはならない、と第一発見者になってしまった実母に言葉を封印されてしまったことから、逡巡と葛藤を経て、自己開示に至るプロセスそのものとも言えるからです。調査報道などと称しながら、実は悲しみが「娯楽」として消費されてしまう、あまつさえ、都合の悪いことはなかったことにしてしまう・・・メディアのあり方にも疑問を感じました。だからこそ自分でも伝えるべきは伝えなくてはならない・・・そう想って語りはじめました。

ただ続けるうちに、自分でも、明快に説明できない、表し尽くせずに胸の内に残ってしまう、説明しがたいものがあることに気づきました。沈殿物かもしれない、浮遊物かも知れない。あわいの時と場所にこぼれてしまうそれらは、私だけの言葉にこだわるのではなく、他者との交錯においてこそ、はじめて何かのカタチになっていくのではないかと想うようになりました。テーマを変え、ゲストを変えるのは、その時々の中にも生まれる内発性を大切にしたい結果です。楢円の軌跡を描くように、ネットワーキングを広げ、人を支える活動〜グリーフサポート活動へと、展開していく中で、悲しみがどう熟成していくか。それが「ミシュカの森」の営みの意味だと感じられるようになったのは、最近のことです。

多様なメディア環境の下で、世界中の人達と、悲しみや苦しみ、喜びを分かち合える手段や機会が増えたようにも見えます。同時にコミュニケーションのスピードや頻度が高くなっても、逆に多くの誤解や齟齬の

余地が生じてしまう気がするのは私だけでしょうか？ とらえどころのない、表現のしにくい気持ちや経験が、ある言葉に置き換えられた途端、明確な輪郭線が与えられているように見えても、そこからこぼれたものは失われて、元の姿からは少しちがっているかもしれない。口の端にのぼる度に少しずつかけ離れたものになってしまうかもしれない。一方で、たとえどんな状態で言葉が放たれたとしても、深く響き、受け止められて、思いもかけない芳醇さを醸すこともあります。かなしみが「悲しみ」「哀しみ」であり、「愛しみ」を感じる瞬間です。

深い言葉の交わりの歓び、真のコミュニケーションの悦びを実感するできごとが最近相次ぎました。「かなしみ=愛しみ」を核として、ネットワークを創っていく活動、「グリーフサポート」のグループが各地で立ち上がっていったことです。「グリーフサポート」の活動は、当事者だけを囲い込んだ当事者活動でもなく、当事者と支援者という二項で括られがちな関係でもありません。閉塞しがちな関係性に風穴を開け、「学び合い」の中で、様々な「困り事」に気づき、弱さの発信を気軽にしあいながら、助け助けられるネットワークづくりをしていく仕組みには、柔らかでしなやかな頼もしさを感じます。「ミシュカの森」の活動が、各地のグリーフサポートの活動と共創、共奏により、一人一人の物語を大事にしていきつつ、一層自由に対話の可能性を開いていけたら・・・春を迎える私のささやかな抱負です。 ミシュカの森 入江 杏

主張 共謀罪を廃案に！

ベグライテン 代表世話人 関根 和彦

もううんざり！最近、テレビも新聞も見たくなくなっていますか？森友学園や共謀罪をめぐる国会でのやり取りを見ていると、高級官僚たちの人を食った無責任な答弁ぶりとこれをかばう開き直った閣僚たちの答弁ぶりが目立ちます。

憲法学者の9割以上が違憲だと言い、国民の過半数が反対しているのに、集団的自衛権があると言い張って安全保障法制を強行採決し、現地の自衛隊は戦闘が行われていると報告しているのに、そんな報告は来ない、平穏だと言って南スーダンに行く自衛隊に新任務を与えて来た安倍内閣だからあんな答弁ができるのかもしれないけれど、安倍内閣ほど、ウソと開き直りが目立つ政権は、見たことがありません。

それにしても驚くべきことは、共同通信社などの調査によれば、共謀罪については導入に賛成の人が反対を上回ると言うのです。もちろん、安倍政権に対して毅然とした態度、言説を取ることができないマスメディアの問題もあるのですが、不十分だとはいえ国会中継もあり、まともなメディアも少しはあるのですから、安倍政権のウソと開き直りを許している人が多い、私たち国民の側にも問題があると言わざるを得ません。

共謀罪問題についての第一のウソは、今準備中の法案は国際組織犯罪防止条約締結のために国内法の整備をするための法案だと言っている点です。しかし国際組織犯罪防止条約が求めているのは、国境をまたぐマフィアなどの組織犯罪集団対策であり、金銭的・物質的な利益を得る犯罪、つまり麻薬や人身売買、マネーロンダリングなどの犯罪の取り締まりなのです。このことは、国連の立法ガイドに「目的が非物質的利益にあるテロリストグループは原則として含まれない」と記されていることから明らかです。

だから国際組織犯罪防止条約締結のためというのは、何か別の目的を隠すための、方便に過ぎないことは明らかです。

しかも、日本の場合、マフィアや暴力団などの組織犯罪集団の犯罪に対処する国内法は、既に十分整っているのです。これらの集団が行う特に重大な犯罪については、既に13の共謀罪(犯罪の相談をし、合意しただけで罪になること)、37の予備罪(犯罪の準備をしただけで罪になること)も定められており、現行法の

ままで国際組織犯罪防止条約を批准できる状態にある。だから、国際組織犯罪防止条約を批准するために、現在準備中の法案が必要だと言うのは、この点からも明らかなウソなのです。

この点を突かれて安倍政権は、これらの組織的犯罪集団が、国際組織犯罪防止条約が求める物質的利益を求める犯罪だけでなく、テロ等の犯罪を行うことを防ぐために、追加として新たに 676 の重大犯罪について共謀罪と準備罪の適用ができるように法改正したいのだと強弁し、開き直りました。そして、この法案が通らないと 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの警備に責任が持てないなどと開き直ったのです。

しかしテロについては、既に日本はテロ防止のための国際条約を批准して国内法の整備も済んでおり、たとえそこに不備があるとしても東京オリンピック・パラリンピックの警備に責任が持てないなどと言うのは、為政者としての責任放棄であり、国会に対する一種の脅迫であるともいえるのではないのでしょうか。

また組織的犯罪集団がテロ等の犯罪を行うのを防止するために、676 もの共謀罪、準備罪を新設する必要があるのか、またテロ等の犯罪を取り締まるため共謀罪、準備罪を設けると言うのに、法律案の中に「テロ」という用語一つ出てこないのは、罪刑法定主義の原則に反する欠陥法案なのではないかという野党の追及に対して、政府は 676 を 277 に減らし、「テロリズム集団その他の」という用語を盛った改定案を自公両党に提示したようですが、これでは野党の追及にまともに答えようとしたものとはとても言えず、歩み寄っているような印象を作ろうとしているだけのようにしか見えません。

しかし、これらの点をめぐる討論を通じて、安倍政権の本音、狙いがにじみ出てきています。

組織的犯罪集団がテロ等の犯罪を行うのを防止するためにそんなに多くの共謀罪、準備罪を新設する必要があるのかという疑問に答える中で、政府は、一般の市民や会社・団体なども「性格を一変させれば」共謀罪・準備罪の対象になりうると認めたのです。これだ、ここにこそ、今回の問題の本当の狙いがある！

組織的犯罪集団と言われる暴力団などがテロ等の犯罪を行うことを防止するためには、そんなに多くの共謀罪・準備罪を用意する必要などはないことは明らかだ。しかし多種多様な活動を行っている一般の市民や会社・団体などが「性格を一変し」テロ等の犯罪を行うことを防止するためには、多くの犯罪について共謀罪・準備罪を設けておいて、市民や会社・団体の活動を多面的、多角的に監視している必要がある。

しかし、一般の市民や会社・団体などの活動を多面的、多角的に監視している必要があるなどと言えば、憲法に違反している、基本的人権を侵害しようとしているなどと大騒ぎになるから、暴力団のような組織的犯罪集団がテロ等の犯罪を行うのを防止するために、多くの重要犯罪について共謀罪・準備罪を新設するが、一般の市民や会社・団体は「性格が一変し」ない限り関係はないなどと言う言い方になるのだ。

近代の憲法は、権力の乱用から国民の生命、身体、思想・信条、財産を守るために、犯罪と刑罰を法律で定めるように定めている。従って今回のように 277 もの共謀罪、準備罪を新設する場合には、その目的、犯罪名、構成要件、刑罰などを明記した法案を提出しなければならないはずであるが、過去に 3 回もこのような一般的な共謀罪法案が廃案になっていることから、目的が全く異なる組織犯罪処罰法の改正案として意味不明瞭なテロ等準備罪の案文が提案されている。テロ等準備罪の定義も、運用上の制限や基準もないこのようなあいまいな法案が、数の力により強行採決されるようなことになれば、政令や省令による定義も曖昧のまま、警察等の捜査機関により運用されることになる。

誰が「性格が一変した」と判断するのか？捜査機関である。「性格が一変した」かどうか判断するため調

査する必要があるが、誰が調査開始を判断するのか？これも捜査機関である。

映画「スノーデン」に見られるような盗聴・盗撮技術の進歩、盗聴法の要件緩和、司法取引の導入、囚人のジレンマのような取り調べ技術の進歩などを考え合わせると、日本は近い将来、とんでもない監視社会、独裁国家、えん罪天国になってしまう。

共謀罪の話は、結構難しいけれど、しっかり勉強して、周囲に広げていかなければいけないと思います。勇気を出して、家族、友人知人、地域で、SNSで、廃案を訴えましょう！（代表世話人 関根 和彦）

◇ベグライテン 3月例会のご案内◇

映画とトークのつどい

戦争、差別、貧困～ある路上画家の人生から学ぶ～

トランプ新大統領の登場に始まった2017年。世界に、日本に、不寛容と排外主義の波が押し寄せています。そんな時代だからこそ、見てほしい映画があります。2001年、9・11前後のニューヨークで撮影されたドキュメンタリー『ミリキタニの猫《特別篇》』。その主人公であるホームレス画家、ジミー・ミリキタニさんは、第二次世界大戦中、日系人収容所に入れられた過去を絵に描き、道行く人々に訴えていました。戦争、貧困、差別の渦中にいながらも絵を描き続けたアーティストの生涯から、私たちは何を学べるのでしょうか。映画上映の後、製作と撮影を担当されたマサ・ヨシカワさんと、東京でホームレス支援を続けてきた稲葉剛さん（つくろい東京ファンド代表理事）の対談もあります。

【日時】2017年3月20日（月・祝）13:00～16:00（12:30開場）

【場所】カトリック麹町教会（聖イグナチオ教会）ヨセフホール（千代田区麹町6-5-1）

JR 中央線／東京メトロ 丸の内線・南北線 四ツ谷駅下車 徒歩1分（上智大学手前）

【参加費】自由献金制 どなたでも参加できます。事前申し込みは、不要です。

（終了後、懇親会を予定しています。各自が飲食された分をお支払いいただきます。）

【主催】カトリック麹町教会メルキゼデクの会（<https://ja-jp.facebook.com/Melkizedeku.Official/>）、
一般社団法人つくろい東京ファンド(<http://tsukuroi.tokyo/>)、ベグライテン(<http://begleiten.org/>)、
ミシュカの森(<https://ja-jp.facebook.com/mforest/>)

【協力】四ツ谷おにぎり仲間、聖イグナチオカレーの会、 IMA 緊急シェルター

【問合せ】090-4959-0652（岩田） 090-6159-8787（稲葉） 090-9146-6667（関根）

ANA71805@nifty.com（入江）

なお、この集いは、「対人援助論」の講義を聴いてくださった上智大学グリーンケア研究所の人材養成講座第三期生の皆様からのお志を全額寄付させて頂き、企画を推進することができました。受講生の皆様に心より御礼申し上げます。またこのイベントでは、稲葉さんの仕事の拠点である「つくろい東京ファンド」で焙煎されている「潮の路コーヒー」の販売もありますのでお楽しみに。（「ミシュカの森」入江 杏）

◇ベグライテン 4月例会(公共哲学を学ぶ会)のご案内◇

山口 二郎さんをお迎えして～民主主義の世界的危機～

2016年は民主主義の持つもろさ、危うさがイギリス、アメリカをはじめ多くの国で顕在化しました。奇矯な、あるいは反知性主義的指導者が民主政治を壟断するという現象は、実は2012年末に誕生した第2次安倍政権が嚆矢となり、世界に広がっていったということもできます。誰もが価値を疑わない民主主義という政治原理の下で、なぜ格差が広がり、差別やいじめを唱道するような権力者が登場するのか。民主主義という仕組みを健全に活用するために、私たちは何をしなければならないのか、今までの歴史や思想家の考察を振り返りながら、考えてみましょう。

【日時】4月22日(土) 14:00～16:30 【参加費】1,000円(学生、生保・障害者 500円)

【場所】上智大学 四谷校舎 6号館 2F 201教室 〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1

(注意)会場が変更になる可能性があるため、お出かけの前にベグライテンのFB、HPでご確認ください。

☆どなたでも参加できます。事前申込は、不要です。 ☆終了後、懇親会を予定しています。

【講師】山口 二郎 さん(法政大学法学部教授 政治学、行政学)

【講師略歴】1958年 岡山県生まれ、1981年3月 東京大学法学部卒業、北海道大学法学部教授、同大学公共政策大学院教授などを経て、2014年4月より現職。この間、コーネル大学、オックスフォード大学、ウォリック大学に留学。

【近著】『政治のしくみがわかる本』岩波書店 『ポピュリズムへの反撃』角川書店

『政権交代とは何だったのか』岩波書店 『いまを生きるための政治学』岩波書店

【主催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】上智大学哲学科

問合せ：090-9146-6667(関根) ・ ANA71805@nifty.com(入江)

◇憲法カフェ@四ツ谷のご案内◇

今回の憲法カフェ@四ツ谷は「映画カフェ」です。事前に、映画「スノーデン」を鑑賞しておいてください。上映館が、減ってきているので、早めに観ておいてください。<http://www.snowden-movie.jp/theater/>

ベグライテン 憲法カフェ@四ツ谷のご案内

～ 映画「スノーデン」を観て、「共謀罪」「憲法」を考える ～

あなたは、憲法19条から特に21条を読んだことがありますか？

「第21条 ①集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。

②検閲は、これをしてはならない。通信の秘密は、これを侵してはならない。」

そこには表現の自由だけでなく、通信の秘密が定められています。ここ20～30年の間にインターネットやモバイル通信環境は驚異的に発達し、通信の秘密をめぐる環境は憲法が制定された70年前とは大きく変わってきました。海外ではエドワード・スノーデンが国家による情報収集活動を告発したことも記憶に新しい

と思います。今回、ベグライテンが主催する憲法カフェ@四ツ谷は、映画「スノーデン」を観て、今話題になっている「共謀罪」や憲法との関係語り合うという形で開催することにいたしました。ご家族、友人、知人を誘ってご参加ください。

.....

第1部 ベグライテン 憲法カフェ第2期 第3回 (映画カフェ)

【日時】2017/3/16 (木) 18:30—20:30

【場所】東京法律事務所 1階会議室 <http://www.tokyolaw.gr.jp/about/location.html>

【アクセス】JR 四谷駅・四谷口前(しんみち通り入口横のファミリーマート隣) Tel: 03-3355-0611

【テーマ】映画「スノーデン」(オリバー・ストーン監督)を観て、

「共謀罪」「憲法」との関係話し合う。(各自、事前に鑑賞しておいてください。)

【提題者】岸 松江 弁護士(東京法律事務所)

【参加費】1人500円+印刷代(100円程度)*参加費は提題者への謝礼となります。

飲み物は各自持参してください。

【連絡/問合せ先】大塩: veu03273@nifty.ne.jp 関根: 090-9146-6667

第2部 ベグライテン安保グループ打合せ

【時間】20:30—21:30 【場所】同じく東京法律事務所 1階会議室

【議題】ベグライテン安保グループの今後の活動について

◇(連続講義)ケアの哲学入門 ～共に生きるための姿勢～ (第1回)◇

人間を見つめる ～ケアと生の地平～

「ケア」について考えることは、他者のために何が出来るかを考えることであると同時に、また私たち自身が「自己」を見つめ、いかに生きるべきかを深く考えることに他なりません。ケアは弱者に対する援助の具体的方法であるだけでなく、いつでも私たちの人間的な「生 LIFE」を作り出す「かかわり」の基本的な姿勢でもあるのです。

この連続講座では、当たり前のように使われている「ケア」という言葉の意味を問い直すところから出発し、それをただ「専門的な技法」としてだけではなく、人間としての「生き方」の問題としても意識できるように、ご一緒に考えて参りたいと思います。

第一回目は、私たち人間がいかなる存在であるのかを見つめ、その根源的な「弱さ」から発見される「ケアへの招き」を確認した上で、具体的に人生の途上で必要となる様々なケアの「地図」を描くことを目指します。(参考文献:プリント資料を配布する予定です)

(2回目以後の予定)

第2回 ケアの概念を考える

第3回 愛することとケアすること

第4回 トラウマの人間学 ～心身との語らい

第5回 スピリチュアルケア ～祈りと希望

【日時】2017年3月26日(日) 14:00～16:30 【参加費】千円

【場所】上智大学 1号館3F 306教室 (正門から入り、すぐ右側の建物の3F)

【講師】崎川 修 さん(ノートルダム清心女子大学 准教授)

略歴 1971年 東京生まれ 上智大学大学院哲学研究科博士後期課程満期退学

2009年 上智大学文学部哲学科常勤嘱託講師(キリスト教人間学担当)

2013年 ノートルダム清心女子大学人間生活学部准教授（現在に至る）

専門は現代哲学、人間学、キリスト教倫理。共著書に 『心とは何か』北大路書房、『ニヒリズムとの対話』晃洋書房、『教養としての応用倫理学』丸善出版、『ケアを生きる私たち』大学教育出版など。

【主催】ベグライテン <https://www.facebook.com/begleiten2?fref=ts> <http://begleiten.org/>

ミシユカの森 <https://www.facebook.com/mforest/?fref=t> 【共催】上智大学 哲学科

【問い合わせ】 関根 090-9146-6667 ANA71805@nifty.com(入江)

◇全生園訪問とお花見会を予定しています！（参加者募集）◇

全生園は、当時不治の難病だと理解されていたハンセン病(らい病)患者を収容すため、明治時代に設立された国立施設です。戦後薬効のある新薬が開発されたにもかかわらず、長く強制隔離政策が続けられたために、人権問題として話題になった時期もありましたが、隔離解除後の今も、年配の患者が生活の場として居住しておられます。ハンセン病資料館の見学とお花見を兼ねて、訪問しますので、下記によりお申込みください。ご家族、ご友人をお誘いいただいても結構です。

古い連絡会員の方には、亡くなられた長島正先生に引率されて訪問した懐かしい施設ですが、今回は花の谷クリニックの伊藤真美先生が代表呼びかけ人になっておられる「安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉関係者の会」の企画に合流させていただく形で、訪問します。

【日時】2017年 4月2日(日) 11:00~15:30(雨天中止) 【参加費】参加費：500円(現地徴収)

【訪問先】全生園(国立療養所多摩全生園) 〒189-8550 東京都東村山市青葉町4-1-1

◎集合時間・場所、訪問内容の詳細は、これから詰めますので、申込時にベグライテンのML、HP、FB、TWなどをご確認ください。お弁当とビニルシートを用意して、ご参加ください。

【申込み方法】タイトルに「4.2全生園訪問希望」と書き、氏名、〒、住所、電話、携帯を記入し、次のあて先にお申込みください。

★e-mail : 初海 浩子 info@begleiten.org fax : 関根 和彦 045-481-4912

【問合せ先】不明な点、質問などがおありの方は、関根 090-9146-6667 樋口

◇4月15日(土)と5月14日(日)「マギーズ東京」訪問を予定しています◇

現在、4月訪問会は受付終了、現在、5月訪問会のみ、募集中です。

「マギーズ東京」は英国発祥の「マギーズキャンサーケアリングセンター」をコンセプトにつくられました。がんになった人とその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人が、とまどい孤独なとき、気軽に訪れて、安心して話したり、また自分の力をとりもどせるサポートもある。それがマギーズ東京です。自然を感じられる小さな庭やキッチンがあり、病院でも自宅でもない、第二の我が家のような居場所。海風を感じながら、自由にお茶を飲み、ほっとくつろぐことができるマギーズ東京の「ヒューマンサポータティブケア」を体感してみたい・・・という声を受けて、「マギーズ東京」の訪問会を企画しました。「暮らしの保健室」訪問会でもお世話になった秋山正子先生(マギーズ東京センター長)はじめ関係者のご厚意により実現した訪問会です。

4月の訪問会の参加者をベグライテンのMLやFBを通して募ったところ、一週間ほどで満席になってしまいました。申し訳ありませんが、受付終了とさせていただきます。

そこで、急遽、5月の訪問会をマギーズ東京にお願いしてご快諾頂きました。

5月訪問会は現在も募集中です、是非ご参加ください。

【日時】2017年4月15日（土）10:30~12:00 ★集合10:15 【定員】30名（先着順）→満員御礼

2017年5月14日（日）13:00~15:00 ★集合12:45 【定員】30名（先着順）→**募集中!**

【場所】マギーズ東京 〒135-0061 東京都江東区豊洲6-4-18

【アクセス】ゆりかもめ「市場前」駅下車徒歩3分

【参加費】500円（現地徴収）チャリティとして全額をマギーズ東京に寄付します。

【申込方法】FBの参加ボタンのみにては参加は確定されません。下記にて受付をお願い致します。

氏名(ふりがな)、〒、住所、電話、携帯、メールアドレスを記入し、

タイトルに「マギーズ東京見学参加希望」と記載の上、下記にメールかファックスでお申込みください。（先着順ですので、早めにお申し込みください。）

★E-mail: 初海 浩子 info@begleiten.org Fax: 関根 和彦 045-481-4912

なお、お問い合わせは「マギーズ東京」でなく、ベグライテン関根まで 090-9146-6667

◆2017年度春期公開講座「人権とケア」0126◆

上智大学コミュニティカレッジの春季講座の募集が始まりました。

申し込み先は主催の「上智大学公開学習センター」まで。TEL 03-3238-3552

講座タイトル、または講座番号 **0126** をお告げください。

【曜日・時間】指定火曜日 19:00~20:30 【回数】7回 【受講料】18,900円（税込）【定員】100名

【コーディネーター・講師】浅見 昇吾 上智大学外国語学部ドイツ語学科教授

専攻分野/ドイツ思想、生命倫理

著作/『医療倫理Q&A』（共著）『魔法の声』（翻訳）他 多数

【講座趣旨】「自分の人権が侵害された!」と思ったことはありますか? そんな経験はないかもしれませんが、でもそれは「あたりまえ」のことではなく、「幸運なこと」なのです。1948年に採択された「世界人権宣言」は、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」と宣言しました。しかし、世界の国々では、いまでも戦争や弾圧、差別により命と自由を奪われている人々が大勢います。日本でも、長年の差別や偏見に苦しんできた人たちがいます。人権は、だれもが生まれながらにして持っていると言われる権利です。しかし、人権を侵されるのは、マイノリティや弱い立場の人であることが少なくなく、その場合、そうした人たちは自分から声をあげることができません。だからこそ私たちは、こうした立場の人たちの生き方や物語に耳を傾けながら、人権について学び、日々の生活のなかで他者の人権を大切にする生き方を身につけていかなければなりません。こうした考えに基づき、本講座では、人権とケアについて学んでいきます。

【スケジュール・講師及びテーマ】(敬称は省略させていただきます。)

4/25(火) 世界の子どもたちにいま起きていること～女性・子どもの人権について

伊藤 和子 弁護士、国際人権NGOヒューマンライツ・ナウ事務局長

5/09(火) 戦争と障害者～ナチスドイツ下のT4作戦が現代に問うもの～

藤井 克徳 NPO 法人日本障害者協議会(JD)代表、きょうされん専務理事

5/23(火) 病み捨ての戻り道 ～ハンセン病を生きて

浅見 昇吾 上智大学外国語学部ドイツ語学科教授浅見

伊波 敏夫 作家・長野大学客員教授(ゲストスピーカー)

6/06(火) 原爆症・水俣病訴訟そして福島第1原発被害

尾藤 廣喜 弁護士、日弁連 貧困問題対策本部副本部長、生活保護問題対策全国会議 代表幹事

6/20(火) 外国人の人権・ヘイトスピーチ 姜 尚中 東京大学名誉教授、東京理科大学特命教授

7/04(火) 愛の反対は無関心～マザー・テレサに学ぶ思いやりの心

片柳 弘史 イエズス会司祭、カトリック宇部教会主任司祭

7/18(火) 宗教的倫理思想と人権 島菌 進 上智大学大学院特任教授、上智大学グリーンケア研究所所長

表示している情報は 2017/03/02 08:26:03 現在 のもので、日程等は一部変更になる可能性があります。

◆0127 人間らしく生きる～さまよう世界。日本はどこへいくのか?～◆

上智大学コミュニティカレッジの春期講座の募集が始まりました。

申し込み先は主催の「上智大学公開学習センター」まで。TEL 03-3238-3552

講座タイトル、または講座番号 **0127** をお告げください。

【曜日・時間】指定水曜日 19:00～20:30 【回数】11回 【受講料】29700円(税込) 【定員】120名

【コーディネーター・講師】大橋 容一郎 上智大学文学部哲学科教授

専攻分野/ 西洋近現代哲学、近代日本哲学、認識論、カント・新カント学派の哲学

著作/ 岩波書店版『カント全集』他多数

【講座趣旨】ますます混迷の度を増している国際情勢に翻弄されている日本は、さまざまな意味で大きな岐路に立っています。憲法論議や米軍基地から自衛隊派遣や領土問題は言うにおよばず、アベノミクスや一億総活躍プランからTPPの見通しなどまで、すべてが不透明化しています。日本に住む人びとの「生活」や「福祉」は、この先どうなるのでしょうか。大きな政治的混乱状態のなかで、原発再稼働問題、子育て世代や若者たちの格差是正、非正規雇用、過密・長時間労働や介護制度など、私たちの日常に直接かかわる問題の、影が薄れていく危機感も深まっています。

いつどのような形で民意が問われるにせよ、岐路に立つこれら重要な問題について、私たちひとりひとりが具体的な形で考えを問われ、決意を問われていることはまちがいありません。なぜ、現在の日本がこのように事態に立ちいたったのか? 「今存在しているのとは別の在り方」はないのか? さまよう世界のなかで、日本が進むべき道はどこにあるのか? どうすれば人間の尊厳を回復し、人間らしく生きられる日本社会が実現できるのか? 各界の有識者にご意見を伺いつつ、受講者のみなさまと共に考える機会にしたいと思います。

【スケジュール・講師及びテーマ】(敬称は省略させていただきます。)

- 4/19(水) 共同体のあたらしい作り方を考えてみよう (講座趣旨説明を含む)
大橋 容一郎 上智大学文学部哲学科教授
- 4/26(水) 今の日本は、それほど危険な状態なのか?—戦後 72 年の歴史をふり返って
ゲストスピーカー 孫崎享 元外務省国際情報局長・東アジア共同体研究所所長
- 5/10(水) 世界の悲劇に日本は何ができるのか?—中東の現場から
川上泰徳 中東ジャーナリスト、元朝日新聞編集委員
- 5/17(水) 自民党憲法改正草案を読み直す
青井未帆 学習院大学大学院法務研究科教授
- 5/24(水) アベノミクスは破綻している—資本主義はどう変わったのか
金子 勝 慶應義塾大学経済学部教授
- 5/31(水) 市民の力は、どこに向かうのか? 中野晃一 上智大学国際教養学部教授
- 6/14(水) 崩壊しつつある日本の医療と介護 本田 宏 NPO法人医療制度研究会副理事長
- 6/21(水) 過労自殺からニートまで—僕たちの「働く」はどこへ向かうのか?
若新雄純 慶應義塾大学特任講師、(株) New Youth 代表取締役
- 7/05(水) 歴史の転換期のメディア ゲストスピーカー 岸井成格 毎日新聞社特別編集委員
- 7/12(水) 宗教者の使命—カトリック者として ゲストスピーカー岡田武夫 カトリック東京大司教
- 7/19(水) 日本の思想と精神文化の今と未来 (講座まとめを含む)
島菌 進 上智大学大学院実践宗教学研究科教授、上智大学グリーンケア研究所長

◆上智大学グリーンケア研究所公開講座のご案内◇

【曜日と時間】毎週木曜日 全 10 回 18:45 ~20:15 【会場】上智大学 四谷 キャンパス キャンパス

【定員】250 名 定員に達し次第、締切ります。【受講料】24,000 円

【問合せ先】上智大学グリーンケア研究所 TEL03-3238-3776

【スケジュール・講師】(敬称は省略させていただきます。)

- 5/11(木) 玄侑 宗久 作家
- 5/18(木) 高木 慶子 上智大学グリーンケア研究所 特任所長
- 5/25(木) 水谷 修 夜回り先生、水谷青少年問題研究所所長 夜回り先生花園大学 客員教授 客員教授
- 6/1(木) 内藤 いづみ ふじ内科クリニック院長
- 6/8(木) 秋山 正子 NPO 法人マギーズ東京共同代表理事 マギーズ東京センター長
白十字訪問看護ステーション統括所長
- 6/15(木) 島菌 進 上智大学グリーンケア研究所所長 実践宗教学研究科委員長
- 6/22(木) 鈴木 岩弓 東北大学大学院文学研究科教授
- 6/29(木) 榊原 洋一 お茶の水女子大学 副学長
- 7/6(木) 山崎 章郎 医師 (桜町病院聖ヨハネホスピ) 「病院で死ぬということ」作者
- 7/13(木) 柳田 邦男 ノンフィクション作家

★★2017年1～2月開催の講演会・セミナーのご報告・ご感想★★

◆ベグライテン1月例会のご報告◆

【日時】1月14日(土) 14:00～16:30 【場所】上智大学 四谷校舎 12号館 1F 102教室

【講師】青井 未帆 さん(学習院大学大学院 法務研究科教授) 【参加費】千円

【テーマ】制約されたくない国家 ～憲法9条改正と緊急事態条項新設を中心に～

【講師から一言】政府は、改憲に向けてじわりと歩みを進めているように見えます。日本国憲法改正草案は、個別の条文案が多くの問題を抱えているのみならず、その前提としているはずの国家と個人の関係が日本国憲法や近代憲法とは逆さまであるところが大問題です。しかし、「お示ししている」と首相自身が何度も述べているわりに、改憲案の想定している国家観、個人観といったことはあまり一般的には知られていません。9条改正や緊急事態条項新設といった事柄もまた、かかる文脈において考える必要があると考えます。

【主催】ベグライテン ミシュカの森 【共催】上智大学哲学科

アンケートのご感想を掲載させていただきます。

★「行き過ぎた個人主義」と言われるものに対する危機感から「個人主義」そのものを否定したくなる気持ちは理解できる。秩序ある社会、和のある集団を求める気持ちは理解できる。今高校教師をしているが、別の学校の先生が「教育勅語は内容を読むと良いことを言っていると思う。家族を大切にとって当たり前のことじゃん。」と言っていたのを聞いたことがある。重要な事は青井先生が最後に強調していた「法と道徳を切り分ける」ことなのだろう。

★立憲主義の理解が少しできたように思います。自民党の草案の恐ろしさが身に染みしました。「国体の本義」「臣民の道」は初めて知りました。心の中に入り込んで、国家が良い国民の生き方を示す事はあってはならない....その通りです。でも知らず知らずに入り込まれていたら、怖いです。疑問を持つことが大事だと思いました。★権力側による一方的な考え方、脅し、プロパガンダを駆使して個人軽視(人間軽視)と国家権力を優先させる力に対抗するため、市民が声を上げる論理を学ぶことが私たちにとって、最も大事なことだと思うのです。学ぶだけで何もできないのではないかと反論もありましたが、無知のまま、日本国の行く末を捻じ曲げるわけにはいきません。学ぶことから連帯し、声を大きくして行動に移すことができると考えます。学ばなければ行動は生じないと思うのです。

◆ベグライテン2月例会のご報告◆

【日時】2017年2月19日(日) 14:00～16:30 【場所】上智大学 中央図書館 8F 821会議室

【講師】本田 宏さん(NPO法人 医療制度研究会副理事長) 【参加費】千円

【テーマ】なぜ日本の医療・介護が充実しないのか～温故知新、ルーツは明治維新にあった～

【主催】ベグライテン ミシュカの森 【共催】上智大学哲学科

世話人の青田茉莉さんが講演趣旨と感想をたいへんわかりやすくまとめて下さいました。下記に掲載させていただきます。

★第一部では、医療や社会保障体制の実態、なぜ「医師不足」がメディアで報道されないのかといった報道の自由度とメディアリテラシーの問題等についてお話がありました。「医療費亡国論」をキー

ワードに1982年に医師数の削減が閣議決定され、世界が医療技術の進歩に伴って医師を増やしているなか日本は医学部の定員削減を進めてきました。そして医師卒後研修制度を契機に医師不足、医療崩壊が顕在化していきます。国は、医師不足の原因を地域偏在にあると言っていますが、人口10万人当たりの医師数は、OECD平均と比較して東京都ですら平均値に達していないというショッキングな事実についての説明もありました。そしてそのような実態が偏向報道により事実を歪めて伝えているメディアの問題点やメディアリテラシーの重要性について改めて強く考えさせられました。そのような中で、本田先生から私たちが正しく事実を「諦めずに」「明ら」かにするために4つの提言がありましたので、ご紹介します。

★諦めずに明らめる4つのポイント ① 盲象をなでるはダメ、全体像を把握せよ ② グローバルスタンダードと比較する ③ 温故知新、歴史に学べ ④ Follow the money いったい誰が得をする

★第二部では、今回の講演のタイトルでもある「明治維新」以降の歴史から介護・医療問題のルーツを探っていきました。かつて渋沢栄一が「官尊民卑の官僚政治、経済界は社会貢献の意識が乏しい」と指摘しましたが、その指摘は現代にもなお脈々と受け継がれています。明治維新は薩長の下級武士によるクーデターであり、明治時代の「官」は薩長の名残でした。明治から続くクレプトクラシー(収奪・盗賊政治)は、戦後の米国隷従体制へと繋がっていきます。現在の日本の「民主主義」は、クーデターや進駐軍によりもたらされたものでありわれわれ国民が自らの手でつかみ取ったものではないということ、明治時代から変わらぬお上に従う国民性、思考を停止させる教育等…過去を知ることによって日本が抱え続ける問題点が見えてきました。そしていかに構造的暴力が席卷する世界からどう脱却していくかというお話がありました。そのヒントとしてキューバを二度訪問されて本田先生が感じたこと(キューバが医療や介護を充実させてきた背景に大国の搾取から革命で自由を勝ち取ったリーダーがおり、そのリーダーを支える国民の強い意志を感じたということ)についてのお話がされました。

★総括、感想 明治維新以降現代もなお脈々と受け継がれる「官尊民卑」「クレプトクラシー(収奪・盗賊政治)」という負の歴史からの脱却は一朝一夕には難しいかもしれません。医療や社会保障の崩壊という重たいテーマではありましたが本田先生のお人柄があらわれたユーモア溢れるお話ぶりに会場からは笑い声が聞こえ、質疑応答や講演会後の懇親会でも大変盛り上がりました。本田先生の「長期戦で明るく戦う」というお言葉に勇気づけられました。

◆癌研有明病院緩和ケア病棟」訪問のご報告◆

「癌研有明病院緩和ケア病棟」の訪問を企画、同病院及び唐渡敦也先生など関係者のご厚意により、以下の日時に訪問が実現しました。

【日時】2017年1月29日(日) 14:00~16:30 【参加者】

【集合場所】癌研有明病院1階ロビー総合案内付近 13:45

癌研有明緩和ケア病棟の見学会には、27名もの方にお越しいただき、三交代で見学しました。

唐渡先生には多くのご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

体のどこにできた癌であるかにより、求められる緩和ケアは異なります。また、家族に対する心身のサポートが必要不可欠であるとも言われています。今回は医療に直接間接にかかわりのある27名の方々が唐渡敦也先生のご案内のもと参加してくださいました。感想を少し紹介させていただきます。

- ★緩和ケア病棟と医療制度の課題について、データを元にわかりやすく説明して頂き、理解が深まりました。これまでなかなか参加が叶いませんでしたが、このような見学会に今後もぜひ参加し学んでいきたいと思ひます。機会を頂きありがとうございました。(A・K様)
- ★とても良かったです。仕事の上でも役に立ちました。(N・T様)
- ★勉強させて頂きました。病棟からの景色が素晴らしかったです。(M・N様)
- ★高度急性期～慢性期そして在宅におけるケアの質を上げていく必要性を切に感じました。(T・S様)
- ★唐渡先生の話はわかりやすく、とても興味深かったです。病院について初めて聞くことが多く勉強になりました。緩和ケアの難しさ、制度的な困難さがよくわかりました。
- ★緩和ケア病棟と医療制度の課題について、データをもとにわかりやすく説明していただき、理解が深まりました。このような見学会を今後も企画して頂けたら、と思ひます。
- ★緩和ケア、ホスピス等でのスピリチュアルケアに興味があり、参加しました。前半のお話で病院の経営からの視点での治療や患者さんへの対応について知ることができてよかったです。ただ、心のケアもふくめて、必要なことを再度見直していくことも大切だと思ひました。
- ★病院の中を先生に案内していただける機会を作っていただき、本当にありがたく思ひています。先生の講義の分も知らなかったことが多くとても参考になりました。病院側の取り組みもよくわかりました。マギーズ東京の見学や聖路加病院の緩和ケア病棟見学及びチャプレンのお話を聞く会にもぜひ参加したいと思ひます。

◆1月～2月開催の憲法カフェのご報告◆

- ◆第4回「若者憲法カフェ」◆【日時】1月20日(金曜) 15時～16時半頃 【参加者】18名
【場所】法政大学の市ヶ谷キャンパス。富士見校舎の5階、507教室。
【全体テーマ】「若者の貧困・格差社会について」
【ファシリテーター】法政大学 小宮修太郎先生 (komiyash@vega.ocn.ne.jp)

- ◆ベグライテン 「憲法カフェ」◆【日時】1月26日(木)18:30～20:30 【参加者】18名
【場所】上智大学7号館 3F 哲学科共用室(仮・変更の際は、哲学科共用室のドアに変更先を掲示)
【講師】大橋容一郎先生(上智大学文学部哲学科教授) 【司会】 関根和彦
【テーマ】日本会議の「新憲法の大綱」について
引き続き、ベグライテン安保グループの打合せを以下の要領で実施しました。
【議題】安保グループの今年の運動方針について【司会】大塩 剛

- ◆憲法カフェ@からしだねシアター◆【日時】2月23日(木)14時～16時 【参加者】11人
【場所】恋ヶ窪(国分寺市) からしだねシアター【講師】岸松江弁護士 【テーマ】憲法前文と共謀罪

★★ その他のカレンダー★★

◇第57回放送フォーラム 制作者と語る◇

「タブーに挑戦する番組 Eテレ“バリバラ”を知っていますか」

“バリバラ”は「バリアフリー・バラエティ・ショー」として、2012年4月に始まったNHK大阪放送局制作の番組です（Eテレ毎週日曜よる7時）。「障害者の障害者による障害者のための番組」を目指し、当事者目線での番組を追求しています。昨年からは「生きづらさを抱えるすべてのマイノリティのための」番組を目指してリニューアルしました。VTRはもちろん、スタジオ出演者やナレーターも身体などの障害者や性的少数者など社会的マイノリティがほとんど。マイノリティによるお笑い番組「SHOW1グランプリ」やファッションショー「バリコレ」、出演者のほとんどが障害者のドラマも制作。硬派な話題からお笑い、性の悩みに至るまで、多様なテーマに挑戦し続けています。

また、昨夏、神奈川県相模原市の障害者入所施設で起きた殺傷事件では、優生思想を問題とした緊急番組を制作したのに続き、年末にも検証番組を制作、ダウン症で知的障害のあるリポーターが関係者を直接取材したり、容疑者の「障害者は生きていく意味がない」との考えに賛同するという人たちと番組出演者が直接議論をしました。今回のフォーラムでは、障害者を始めとする社会的マイノリティが生きやすい社会を実現していくために、“バリバラ”の番組担当者と共に考えたいと思います。

【ゲスト】 森下光泰（もりした・みつひろ）さん（NHK大阪放送局制作部）

【プロフィール】 1997年入局、核や戦争、人権問題をテーマに番組を制作“E TV特集”「埋もれた声 ～大逆事件から100年」「原発事故への道程」など“その時歴史が動いた”「人間は尊敬すべきものだ ～全国水平社 差別との闘い」「3000万の署名 大国を揺るがす ～第五福竜丸が伝えた核の恐怖」「歴史秘話ヒストリア」「さわるな危険！宮武外骨 ～反骨の闘士 時代と格闘す」「たった一人のあなたへ ～『蟹工船』小林多喜二のメッセージ」など“福祉ネットワーク”「終わらない隔離 ～ハンセン病退所者のいま」ほか多数現在は、“バリバラ”など大阪放送局制作番組のプロデューサー兼ディレクター

【日時】 2017年3月12日（日）13:30～16:30（会場 13:00）

【場所】 新宿農協会館 8階会議室 http://www.geocities.jp/hoso_katarukai/event2.html

【主催】 放送を語る会 協賛 日本ジャーナリスト会議・メディア総合研究所

【連絡先】 放送を語る会代表 今井 潤 090-4678-7132 事務局長 小滝一志 090-8056-4161

◇「市民と野党をつなぐ会@東京」集会◇

市民と野党が25小選挙区、選挙で勝たねば民意は反映できない！

平和とくらしのために、統一候補で勝利しよう！

【日時】 2017年3月13日（月）17:00開会（入館証配布開始16:00～終了19:00）

【場所】 衆議院第一議員会館 大会議室（300名）

【主催】 「市民と野党をつなぐ会@東京」 ren_tunagu2@yahoo.co.jp

◇入江杏「悲しみを生きる力に」講演会@番場さちこ先生の番来舎◇

NHKで『原発に一番近い病院』として紹介された福島県双葉郡広野町高野病院。福島第一原発事故の避難区域である双葉郡で唯一診療を続けておられた病院です。唯一の常勤医であった高野院長が昨年末12月30日深夜に火災で亡くなられた、との報は、ベグライテンのMLでも投稿されておりました。高野病院への支援を呼びかけられたお一人が「ベテランママの会」代表の番場さちこさんです。番場さんの活動に関する記事は東京新聞、日経新聞など各メディアで紹介されています。添付で是非読んでみてください。南相馬から東京への避難者らの支援や相談に応じてこられた番場さんの東京での拠点が「番来(ばんらい)舎」です。東京大学一番近い学び舎としても知られる「番来舎」に、この度お招きいただき、「悲しみを生きる力に」をお話することになりました。番場さんに頼まれたので、私の話もこの日に致しますが、何より番場先生から「福島の今」を聞き、感じ、「曖昧な喪失」にどう向き合うのか、一緒に考える時間になるのではと思います。是非、お越し下さい。

【日時】2017年3月14日(火)19時~21時 【参加費】2000円(学生無料)

【場所】番来(ばんらい)舎 目黒区駒場1-28-1 田村ビル304号
井の頭線・駒場東大前(各駅停車のみ停車)東口徒歩2分

【講師】入江 杏(ミシュカの森主宰・上智大学グリーンケア研究所非常勤講師・
世田谷区グリーンサポート検討委員) 【テーマ】悲しみを生きる力に

【問い合わせ】番来舎・ベテランママの会 03-6497-1566 090-9034-8728

◇3月14日夜 国会正門前に集まろう!◇

~安倍政権の茶番を許してはならない!共謀罪閣議決定を止めよう!~

安倍首相は、共謀罪(テロ等準備罪)国会提出に向けて3月10日の閣議決定をめざしています。今回明らかにされた、共謀罪法案には首相が強調していたテロ対策のテの字もなく、この間の政府の説明がいかにもペテンに満ちていたものか明らかになりました。

この案に世論の批判が高まると、政府・与党は法案にテロの文言をいれようと動きはじめています。3度廃案になった共謀罪を「テロ準備罪」と名前だけをかえて制定をはかろうとする政府・法務省・与党の暴挙を許してはなりません。話しあうことが罪になる共謀罪はいりません。

【日時】3月14(火曜日)18:30~20:00【共催】共謀罪 NO!実行委員会 総がかり行動実行委員会

◇「いわゆる共謀罪に関する法案の上程に反対する市民集会」◇

共謀罪法案は、これまで国会に上程される度に廃案とされてきましたが、本年1月から、新聞各紙において政府が本年の通常国会に従来の法案を修正し、名称も変更した新たな法案の提出を検討しているとの報道がなされています。そこで、市民の皆様に対し同法案の問題点を広くお知らせするため、この市民集会を開催します。奮ってご参加ください。

【日時】2017年3月14日(火) 18時00分~20時00分 (開場 17時40分)

【場所】弁護士会館17階1701会議室(千代田区霞が関1-1-3)
地下鉄丸ノ内線・日比谷線・千代田線 「霞ヶ関駅」B1-b出口直結

【参加費】無料 【参加対象・人数】どなたでもご参加いただけます（事前申込不要）。※定員120名
※座席数に限りがありますので満席の際はご了承ください。

※テレビ会議中継での参加を希望される会員は、3月7日（火）までに所属弁護士会にご連絡ください。

【内容（予定）】

◆講演 青木 理 氏（フリージャーナリスト）◆基調報告 日弁連共謀罪法案対策本部委員

【主催】日本弁護士連合会 【お問い合わせ先】日本弁護士連合会 法制部法制第二課 03-3580-9852

◇三上智恵監督最新作「標的の島 風かたか」公開記念 講演会◇

「標的の島」が問いかけること～三上智恵監督、沖縄基地問題を語る

三上智恵監督はインタビューで、「沖縄が何と闘っているのか。それは、この国が失おうとしているものを守るために闘っているんです」と語っています。伸張する先島諸島の基地化、拡張する草の根の反対運動を撮ることで、「もやは(沖縄)県内だけの問題ではなくなった。全国各地の地域の若者に、なぜ他国の戦略に付き従う政権の雇い兵のようなまねをさせるのか」というこめられた三上監督の思いを聴きます。

【日時】2017年3月17日 18:30~20:30(18:15開場) 【場所】早稲田大学大隈記念講堂小講堂(300席)

【プログラム】(上映会ではありません。予告編の上映のみになります。)

登壇：三上智恵監督 岡田正則教授(早稲田大学法学学術院)

【主催】安全保障関連法の廃止を求める早稲田大学有志の会

◇0317 再稼働反対！首相官邸前抗議行動◇

川内原発2号機、2/23に運転再開。安倍政権に川内原発今すぐ止めろ、の大きな声を!

【日時】2017年3月17日(金)18:30~20:00 予定

【場所】首相官邸前、国会正門前(国会議事堂前駅、霞ヶ関駅、永田町駅、桜田門駅をご利用ください)

【呼びかけ】首都圏反原発連合

◇法政大学公開企画 「大学・学術の未来と軍事・デュアルユース研究」のご案内◇

法政大学では先般発表いたしました本学の指針「軍事研究・デュアルユース(軍民両用)研究等に関する本学の対応」について、学内外により広くご理解をいただく機会として、以下の公開企画を開催いたします。当日は、現在、日本学術会議に設置されている「安全保障と学術に関する検討委員会」の委員長をつとめる本学法学部杉田敦教授から、学術会議における議論の動向についても報告いただきます。学生・大学院生、大学・教育機関関係者、一般の方、どうぞご参加ください。定員が130名で、定員に達し次第、締め切りになります。下のURLの「お申込みフォーム」にて、参加を申し込みをお願いします。申込期限は3月12日です。<http://www.hosei.ac.jp/NEWS/event/170224.html>

【日時】2017年3月18日(土)17:00~19:00 (受付開始16:30より)

【会場】法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎3階 S306教室 【参加費】無料

【アクセス】千代田区富士見2-17-1 JR・地下鉄市ヶ谷駅または飯田橋駅徒歩10分交通アクセス(市ヶ谷)

【参加対象】学生・大学院生、大学・教育機関関係者、一般の方 【主催】学校法人法政大学

◇第1回カララボおしゃべりカフェ◇

平井里美さんを囲んで「足もとの民主主義」を考える～市民活動の先にあるもの～

世界中が閉塞感に包まれ、粗雑な考えで自己主張を強める人たちが目立つ現在。民主主義の揺らぎを感じます。今、漠然と抱えている危機感に、大統領でも首相でも都知事でもない、市井の「私」にできることはあるのでしょうか？そこで、昨年の狛江市長選挙に挑戦した平井里美さんをお迎えして、市民活動を長く行ってきた結果、市政を担おうと思いついた理由、そして選挙を経て、見えてきた課題などさまざまなお話をさせていただきます。身近な暮らしをよりよくするために、人としてどう考え、どう動いたらよいのか、そのヒントを探りにきませんか？その先にあるものがどうか「希望」であることを願って…。

.....
【日時】2017年3月19日(日)14:00～16:30(13:40開場) 【参加費】200円(お茶菓子代等)

【場所】狛江市中央公民館2階 第四会議室(狛江市和泉本町1-1-5)

【アクセス】小田急線狛江駅北口から徒歩3分 【定員】18名 ※終了後、懇親会あり

【問い合わせ・申込み】櫻井(hyo6@ezweb.ne.jp または 090-3528-0880)まで
.....

第一部 平井里美さんのお話…市民活動の目覚め/市民活動を経て選挙へ/今、思うこと など

第二部 みんなで考える「私」の市民活動…よりよく暮らすために私たちにできることを、お茶を飲みながら語り合います。

【平井里美さん PROFILE】日本語講師として働きながら「狛江手作り財政白書をつくる会」(事務局長)、「狛江市民センターを考える市民の会」(前代表)など市民活動を行ってきた。2016年狛江市長選に出馬。現職に僅差で敗れるも善戦。現在も様々な活動を行っている。

【主催】カララボ(難しいことは苦手だけど、社会で起きていることに目をつむれない、だから楽しいこととしながら学ぶ狛江市民の会) 【共催】ベグライテン

◇いのちを守れ! フクシマを忘れない さようなら原発全国集会◇

福島原発事故からまもなく6年を迎えようとしています。福島では、8万人近い被災者が、いまでも苦しい避難生活を余儀なくされています。子どもたちの甲状腺の問題、労働者被曝の問題、中間貯蔵施設の問題、帰還と補償打ち切りの問題など山積する課題の中で被災者が悩み苦しんでいます。

また、政府は、福島原発の廃炉など事故処理にかかる費用が、従来想定約2倍となる21.5兆円と試算し、費用の一部を電気料金に上乗せすることで、消費者にツケを回そうとしています。

安倍政権は、原発の再稼働、核燃料サイクルの推進、原発輸出を掲げ、原発推進政策をゴリ押ししています。しかし、高速増殖炉「もんじゅ」は廃炉決定に追い込まれ、核燃料サイクル崩壊が始まっています。原発再稼働も、市民の強い反対の前で思うように進んでいません。原子力政策の行き詰まりは明らかです。原子力政策の根本的転換を迫り、フクシマの被災者との連帯を強化しましょう。

【日時】2017年3月20日(月、春分の日)

【場所】代々木公園(JR山手線「原宿駅」、東京メトロ千代田線「明治神宮前駅」
千代田線「代々木公園駅」、小田急線「代々木八幡駅」下車)

- *11:00 ブース開店 (けやき並木) さようなら原発ライブ (趙博さん、中川五郎さん、ほか)
- *13:30 トーク ※ステージ上のトークには手話通訳があります。
 落合恵子さん (作家)、鎌田慧さん (ルポライター)
 福島現地、福島避難者、被曝労働者から フクシマ連帯キャラバンから ほか
- *15:00 デモ出発 渋谷コース:会場→渋谷駅前→明治通り→神宮通公園解散
 原宿コース:会場→原宿駅→外苑前駅→明治公園周辺解散

◇「存明寺グリーンケアのつどい」ご案内◇

「ミシュカの森 2016」で冒頭にお話下さいました酒井義一御住職の存明寺は、3か月に一度、約3時間の「グリーンケアのつどい」を開いておいでです。今年の日程をご紹介します。

【日時】2017年(平成29年) 3月25日(土)14時～ その後6月24日(土)、9月30日(土)、12月16日(土)

【会場】真宗大谷派 存明寺 (東京都世田谷区北烏山 4-15-1) 【会費】500円(茶菓子の点心付きです)

【アクセス】京王線「千歳烏山駅」北口より徒歩20分。 井の頭線「久我山駅」より徒歩20分。

京王線「千歳烏山駅」北口より関東バス「久我山病院行き」にて「寺院通り3番」下車すぐ前。

【問い合わせ・連絡先】真宗大谷派存明寺(住職:酒井義一) 電話 03-3300-5057 sakai@zonmyoji.jp

◇共謀罪とは何か? 緊急トークイベント◇

共謀とは何か。「テロ対策」なら必要な法整備をするだけで足りるのに、なぜ包括的な共謀罪の成立を急ぐのか。戦前の「治安維持法」もふりかえりながら、わかりやすく議論します。

共謀とは何か、なぜ包括的な共謀罪の成立を急ぐのか、戦前の「治安維持法」もふりかえりながら議論します。極めて不可思議な状況の中で、戦後で最も危険な法案が国会に提出されようとしています。共謀罪を改め「テロ等準備罪」と呼んで、2020年のオリンピックに向けたテロ対策と安倍首相は強調するも、政府・法務省が内示した法案の中にテロという言葉がないなど、「共謀罪のラベルを張り替えただけ」とも言われています。

今から12年前から、共謀罪に関して国会審議で深く掘り下げ、過去三回の廃案につなげた論戦を担った保坂展人と平岡秀夫元法務大臣が緊急にこの「共謀罪」について問題提起いたします。なぜ、共謀罪は過去に3回も廃案になったのか。与野党でどんな議論が行われたのか。その教訓と論点を浮き彫りにして、「ラベルの張り替え」と単なる焼き直しで成立する危険について徹底的に論じます。

【日時】2017年3月26日(日) 18:00~21:00 17:45開場 【資料代】1000円

【場所】北沢タウンホール2階 第1・第2集会室 世田谷区北沢 2-8-18

【プログラム】トーク:平岡秀夫(元法務大臣) 保坂展人(世田谷区長) ※スペシャルゲストあり

【事務局】保坂展人と元気印の会・リベラル日本研究会

【お問い合わせ】電話 090-2163-1451 メール yanada.takayuki@gmail.com (リベラル日本研究会)

→お申し込みは「こくちーず」からお願いいたします。

◇税金カフェのご案内◇

「税金ってなんだかムズカシそう・・・」「税金のことなんて知らなくてもいい?」

いえいえ、税金は、憲法と同じように、わたしたちの生活に密接にかかわっています。

「税について考えること」は、「わたしたちの暮らしを考えること」なのです。

「立憲主義と人権から考える公正な税制とは？」 「公平な税金の集め方は？」

お茶を飲みながら、弁護士の宇都宮健児さん&税理士の内田麻由子さんと、楽しく税金について学び、語り合ひましょう。グループディスカッションもあります。お食事もありますので、ぜひお早めにご来場の上、ご注文ください（お食事は別会計です）。

【日時】 2017年3月28日(火) 18:30~20:40 (開場 17:30)

◆第1部 「立憲主義と人権から考える公正な税制とは」

講師：宇都宮 健児 氏 弁護士。公正な税制を求める市民連絡会 共同代表
著書に『自己責任論の嘘』『悪と闘う』他多数

◆第2部 「公平な税金の集め方をみんなで考えてみよう」

講師：内田 麻由子 氏

税理士。内田麻由子会計事務所代表 公正な税制を求める市民連絡会 税金カフェ担当

【会場】 キイトス茶房 新宿区笹笥町25野吾ビル2F TEL 03-5206-6657

大江戸線「牛込神楽坂」A1出口徒歩1分 東西線「神楽坂」2番出口徒歩5分

<http://kiitosryo.blog46.fc2.com/>

【料金】 1500円 (ワンドリンク付) (当日会場にて) 【定員】 30名

【主催】 公正な税制を求める市民連絡会 <http://tax-justice.com/>

【お申し込み】 フェイスブック、Eメール、お電話でどうぞ。

☆FB <http://www.facebook.com/tax.justice.jp/> (公正な税制を求める市民連絡会)

イベントに「参加」でOK!

☆Eメール info@n-sk.org (内田) ☆お電話 03-6454-1567 (内田麻由子会計事務所)

◇ソーシャル・ジャスティス基金 第48回 SJF アドボカシーカフェ◇

～障害や病気をもつ家族をケアする子ども・若者たちに希望を～

【日時】 2017年3月29日 18:30~21:00 (開場 18:00) 【会場】 文京シビックセンター

【講師】 井手 大喜さん (草加市議会議員)

松崎 実穂さん (国際基督教大学ジェンダー研究センター研究所助手)

【主催と問い合わせ】 ソーシャル・ジャスティス基金 電話 03-5941-7948

◇東京大学臨床死生学・倫理学研究会◇

【会場】 東京大学本郷キャンパス法文2号館2階 一番大教室 (予定)

【時間】 午後6時45分~8時30分 【お問い合わせ】 uc4dals@gmail.com

【日程・テーマ・発表者】

・4月26日(水) 「長寿時代の臨床死生学・倫理学」

会田 薫子 (東京大学大学院人文社会系研究科 上廣死生学・応用倫理講座)

・5月10日(水) 「認知症高齢者の居場所と死に場所について」

細井 尚人 (袖ヶ浦さつき台病院 認知症疾患医療センター)

- ・5月31日(水) 「高齢者の薬：ポリファーマシーの危険性とその対策」
小島 太郎 (東京大学大学院医学系研究科 加齢医学講座)
- ・6月28日(水) 「選択を迫られるALSの人々への看護師の支援— ゆだねるとき、開かれるとき」
渡邊 賢治 (東京女子医科大学 看護学部 老年看護学)
- ・7月26日(水) 「高齢者のエンドオブライフ・ケアにおける人材育成」
桑田 美代子 (青梅慶友病院 看護介護開発室)

*本研究会の情報やチラシは随時次のところにアップされます。必要に応じてご参照ください。

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/ja/study.html>

◇「未来語りのダイアログ」講演会◇

【日時】2017年4月29日(土) 13:00~17:00 【参加費】非会員¥4,000 会員¥2,000

【場所】東京大学 駒場Iキャンパス 21KOMCEE B1F East K011 (目黒区駒場3-8-1)

【講師】斎藤環先生(筑波大学教授、総合司会)

トム・アンキル先生(フィンランド国立保健福祉研究所教授)

ロバート・アンキル先生(Arnkil Dialogues 代表)

【プログラム】・12:30~13:00: 開場・受付 ・13:00~17:00: 講演会

*トム・アンキル教授、ロバート・アンキル氏とのやりとりは、英語から日本語への逐語通訳付。

【定員】240名 【お問い合わせ先】odj@skc-net.or.jp

【主催】公益社団法人青少年健康センター オープンダイアログネットワークジャパン

【申し込み】*会員申し込み先 <http://bit.ly/2jHD5sX> *非会員申し込み先 <http://bit.ly/2khrO1z>

◇5.3 憲法集会 施行70年 いいね! 日本国憲法—平和といのちと人権を! ◇

【日時】2017年5月3日(水・休) 11時~16時(予定) *カンパも募っています!

【場所】有明防災公園(東京臨海広域防災公園) 【主催】5・3 憲法集会実行委員会

【集会内容】※詳細は決まり次第お知らせしていきます。

11時~ ブース・イベント広場スタート 12時~ ライブ 13時~ 集会スピーチ

★★★編集後記★★★ ふるさとの銘菓亡き娘の雛の間に 杏

桃の節句には亡き姪の笑顔思い出します。にいなちゃん、礼くんのおばあちゃん(宮澤さんのお母様)は岩手陸前高田の出身。妹一家の生前、「かもめの玉子」は、隣家の私もよくご相伴に預かりました。今日は地域の小学校の謝恩会で頂いた紅白の「かもめの玉子」を。喜びと悲しみ…かなしみが一層よろこびのかけがえなさを教えてくれます。講演会や講座、イベントの情報をお持ちの方はお寄せ下さい。なお「カレンダー」に掲載の一部の催しについては、お出かけの前に、主催団体のHP、FB、Twなどで調べてからお出かけを。書籍や映画などの推薦、投稿も大歓迎です。頂いた記事を並べているだけで、ミシュカの森関連記事以外は、皆様からの投稿が中心の会報です。(編集担当「ミシュカの森」 入江 杏)

★★★★★★★★★

会報に関する連絡先: メールで入江まで ANA71805@nifty.com 電話の場合: 関根まで 090-9146-666